

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公開番号】特開 2001-190953 (P2001-190953A)

【公開日】平成 13 年 7 月 17 日 (2001.7.17)

【出願番号】特願 2000-330201 (P2000-330201)

【国際特許分類】

**B 0 1 J 21/06 (2006.01)**

**B 0 1 J 35/02 (2006.01)**

**C 0 1 G 23/053 (2006.01)**

**C 0 9 D 1/00 (2006.01)**

**C 0 9 D 5/00 (2006.01)**

**B 0 1 D 53/86 (2006.01)**

**B 0 1 D 53/94 (2006.01)**

【F I】

B 0 1 J 21/06 A

B 0 1 J 35/02 J

C 0 1 G 23/053

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/00 Z

B 0 1 D 53/36 J

B 0 1 D 53/36 G

B 0 1 D 53/36 1 0 2 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 23 日 (2007.8.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電子スピン共鳴スペクトルにおいて g 値 1 . 9 3 0 ~ 2 . 0 3 0 の間に 3 つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークが g 値 1 . 9 9 0 ~ 2 . 0 2 0 の間に存在することを特徴とする酸化チタン。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

すなわち本発明は、電子スピン共鳴スペクトルにおいて g 値 1 . 9 3 0 ~ 2 . 0 3 0 の間に 3 つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークが g 値 1 . 9 9 0 ~ 2 . 0 2 0 の間に存在することを特徴とする酸化チタンを提供するものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明を詳細に説明する。本発明の酸化チタンは、電子スピン共鳴（以下、E S Rという。）スペクトルにおいてg値1.930～2.030の間に3つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークがg値1.990～2.020の間に存在するものである。